

問1 縄文土器と比べて薄く作られ、煮炊きに適していたのはどのような温度で焼かれたから？

1. 乾燥 2. 多湿 3. 低湿 4. 高温

問2 1世紀、後漢の時代に倭の奴国の王が使節を送った際に、その権威を認めて印を授けた皇帝を何という？

1. 玄宗 2. 光武帝 3. 始皇帝 4. 武帝

問3 弥生時代に大陸から伝わり、実用品ではなく主に祭祀の道具として使われた青銅器のうち、釣鐘のような形をしたものを何という？

1. 銅矛 2. 銅剣 3. 銅鐸 4. 鏡

問4 弥生時代の日本が、中国の王朝へ進んだ文化や権威を求めて使者を送り、贈り物や献上品を送る外交形式を何という？

1. 朝貢 2. 大化の改新 3. 冊封 4. 遣唐使

問5 弥生時代に大陸から伝わり、武器としてではなく、祭祀や儀式の際に用いられた青銅製の釣り鐘型の道具を何という？

1. 銅剣 2. 銅矛 3. 鏡 4. 銅鐸

問6 佐賀県にあり、周囲に濠（ほり）を巡らせた弥生時代の集落跡として知られる代表的な遺跡を何という？

1. 三内丸山遺跡 2. 大森貝塚 3. 吉野ヶ里遺跡 4. 登呂遺跡

問7 奴国からの使節の来訪や金印の授与についての記述がある、中国の歴史書を何という？

1. 後漢書 2. 魏志倭人伝 3. 古事記 4. 日本書紀

問8 弥生時代に大陸から金属器とともに伝わり、それまでの採集中心の生活から定住型の社会へ変化させる大きな要因となった技術を何という？

1. 漁労 2. 稲作 3. 採集 4. 狩猟

問9 57年に奴国の使者が訪れ、金印を授けたとされる後漢の皇帝を何という？

1. 桓靈 2. 文帝 3. 光武帝 4. 献帝

問10 邪馬台国の卑弥呼が魏の皇帝から贈り物を受けた様子など、当時の日本の様子が詳しく記されている中国の歴史書を何という？

1. 日本書紀 2. 古事記 3. 風土記 4. 魏志倭人伝

問11 弥生時代に作られた銅剣や銅矛などの青銅器は、主に何という儀式の道具として発展した？

1. 狩猟 2. 祭祀 3. 交易 4. 農耕

問12 『後漢書』東夷伝などの歴史書において、弥生時代の日本列島に多数存在していたとされる政治的なまとまりを何という？

1. 小国 2. 邪馬台国 3. 倭国 4. 奴国

問13 福岡県の志賀島で発見され、1世紀に中国の皇帝から日本の王が贈られたことを示す重要な遺物を何という？

1. 銅矛 2. 金印 3. 銅鏡 4. 銅鐸

問14 佐賀県に位置し、環濠集落の中でも大規模で、高床倉庫や物見やぐらが復元されていることで知られる遺跡は何という？

1. 吉野ヶ里遺跡 2. 唐古・鍵遺跡 3. 登呂遺跡 4. 菜畑遺跡

問15 江戸時代に金印が発見されたと伝えられている、現在の福岡県にある島は何という？

1. 種子島 2. 壱岐 3. 対馬 4. 志賀島

答え合わせ・解説

問1	答え 4 高温	縄文土器と異なり、弥生土器は密閉された窯などを用いて高温で焼く技術によって製造されました。高温で焼くことで強度が上がり、煮炊きに適した薄い土器を大量に作ることができました。これにより食生活や保存方法が大きく向上しました。
問2	答え 2 光武帝	『後漢書』東夷伝によれば、57年に倭の奴国の使者が後漢の光武帝に謁見し、朝貢しました。その際、光武帝は奴国の王に対し「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けたとされています。
問3	答え 3 銅鐸	銅鐸は主に近畿地方を中心に多く出土しており、祭祀の道具として用いられました。当初は小型でしたが、時代が進むにつれて大型化し、表面には線刻で絵が描かれるようになるなど、集落の祭りに欠かせないシンボルとなりました。
問4	答え 1 朝貢	朝貢は、中国の皇帝に対して周辺諸国の支配者が使者を派遣し、贈り物（貢ぎ物）を差し出す外交儀礼です。皇帝はその返礼として、称号や印などを与え、支配者としての正当性を認めました。これにより、日本側の首長は国内の勢力争いで優位に立つことができました。
問5	答え 4 銅鐸	銅鐸は、主に近畿地方を中心に分布しており、弥生時代の村の共同体で行われる祭りや儀式に使われたと考えられています。初めは小型で実際に鳴らしていましたが、時代が進むにつれて大型化し、文様が描かれるようになり、神聖な祭器として祭りの場に立てられたり、埋められたりしました。
問6	答え 3 吉野ヶ里遺跡	吉野ヶ里遺跡は、周囲に二重の環濠と柵をめぐらせた巨大な集落跡です。内部には多数の高床倉庫や竪穴住居、祭祀場などが復元されており、弥生時代の社会構造や生活の様子を知る上で非常に重要な遺跡です。
問7	答え 1 後漢書	『後漢書』は、後漢時代の出来事をまとめた中国の歴史書です。この中にある「東夷伝」という章には、当時の日本（倭）の様子が記されており、57年に奴国の王の使いが後漢へ向かい、光武帝から金印を授けられたという記述が含まれています。
問8	答え 2 稲作	稲作が定着したことで、人々は安定した食料を得られるようになり、収穫の時期に合わせて同じ場所に住み続ける定住生活が始まりました。木製の農具や鉄製の道具が使われるようになり、生産効率が飛躍的に高まりました。
問9	答え 3 光武帝	光武帝は、57年に九州の奴国から訪れた使者に対し、朝貢の返礼として金印を授けました。これは当時の中国が、周辺の地域の小国を支配下（冊封体制）に置こうとした外交政策の一環でした。
問10	答え 4 魏志倭人伝	魏の歴史をまとめた『魏志』のうち、東夷伝という章に倭人に関する記述があり、一般に『魏志倭人伝』と呼ばれます。当時の日本の社会情勢、邪馬台国の卑弥呼の様子、生活習慣などが記録されています。
問11	答え 2 祭祀	青銅器である銅剣や銅矛は、鋭い刃を持ちながらも実用には適さない繊細なものも多く、主に祭祀の場で神聖な道具として使われました。これらを所有したり儀式を主導したりすることが、指導者の権威を高めることにつながりました。
問12	答え 1 小国	当時の日本は「百余りの小国」に分かれていたと『後漢書』などに記されています。これらの小国は、豊かな水田地帯を支配する有力者（首長）を中心に組織され、ときには他の集落や小国と水や土地をめぐって激しく争いました。
問13	答え 2 金印	1784年、福岡県の志賀島で農夫によって発見されました。印面には「漢委奴国王（かんのわのなのこくおう）」と刻まれており、中国の後漢書にある記述と一致します。これは、当時の日本が既に中国の皇帝から「王」として認められる外交交渉を行っていたことを裏付けています。
問14	答え 1 吉野ヶ里遺跡	吉野ヶ里遺跡は、周囲に深い堀（環濠）を巡らせ、外敵の侵入を防ぐ構造を持つ大規模な集落跡です。敷地内には高床倉庫や物見やぐら、王の住居と見られる建物などが再現されています。
問15	答え 4 志賀島	福岡県の志賀島で、農作業の最中に石の間から金印が発見されたと伝えられています。金印には「漢委奴国王」という文字が刻まれており、これがかつて中国の皇帝から授けられたものと結びつけられました。